

令和3年度

森林教育活動事例集



はじめに

三重県では、平成26年4月から「みえ森と緑の県民税」を導入し、「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めており、その取組の一つとして、森林教育の推進に取り組んできました。

この税を活用して、平成28年4月からは、森林教育や森づくり活動の総合窓口となる「みえ森づくりサポートセンター」を設置・運営し、森林教育のコーディネート、指導者の育成や紹介、出前授業や活動事例集の発行などを行ってきたところです。

こうした中、令和2年10月には、森林や社会を巡る情勢の変化に対応するため、県がこれまで推進してきた森林環境教育・木育を、明確な目的意識の下、より効果的に実施していけるよう、「みえ森林教育ビジョン」を策定し、森林教育の基本的考え方や目標とする社会、人物像及び進め方を発展的に整理し、森林教育指導者、森林・林業・木材産業関係者、保育関係者、教育関係者等と共有しながら、これらの取組を一体的に進めていくこととしたところです。

この「森林教育活動事例集」は県内の学校等で実施された森林教育の活動事例を、ご提供いただいた情報をもとにまとめ、編集したものです。

実施された活動内容のほか、活動のねらいや時間割等についても掲載していますので、今後森林教育活動を計画、実施する際の取組の参考としてご活用いただければ幸いです。

この事例集に関するお問い合わせや、森林教育活動のご相談は、「みえ森づくりサポートセンター」へご連絡ください。

結びに、本事例集の発行にあたり、活動事例をご提供いただきました皆様方に厚く御礼申し上げます。

令和4年3月 三重県農林水産部

みえ森林教育とは

森林と私たちの暮らし、経済がともに持続可能で豊かな社会を作っていくために、子どもから大人まで、三重県で暮らす誰もが、森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人（みえの森びと）に育つことを促す教育活動をいいます。

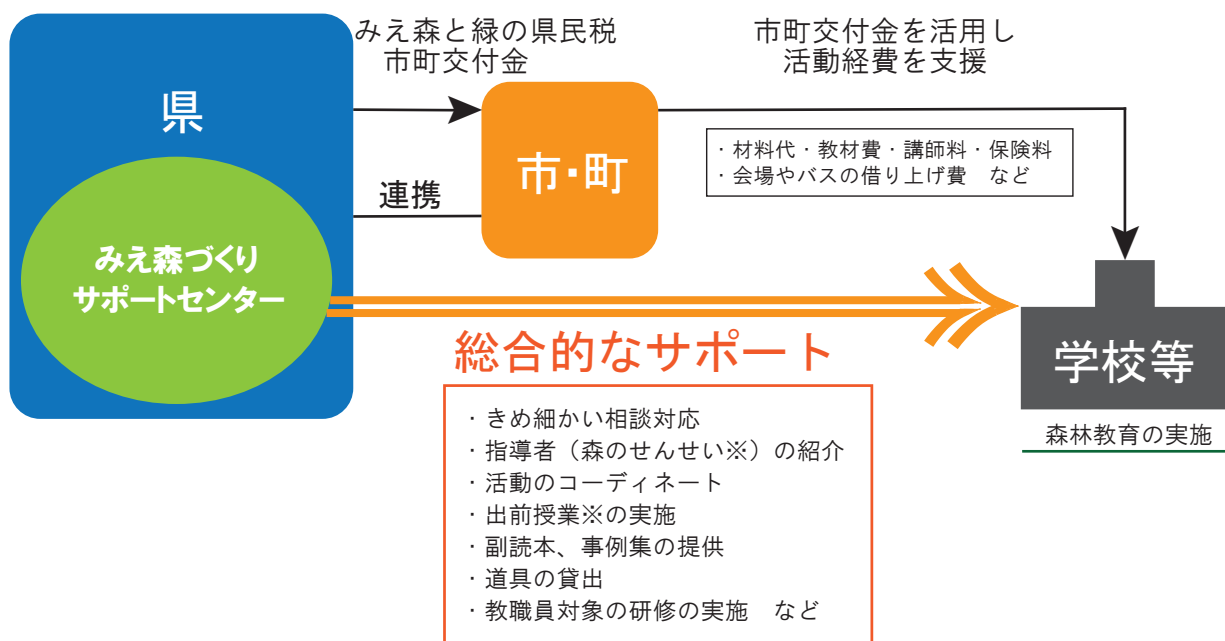
みえ森林教育の基本的考え方

- ①森林や木材が暮らしや経済に当たり前に取り入れられている社会づくりへ向けた教育
- ②森林に関わる活動やビジネスを志すきっかけとなる教育
- ③自ら考え、判断して行動する力を育む森林教育

「みえ森と緑の県民税」を活用した森林教育について

「みえ森と緑の県民税」では、市町が地域の实情に応じて創意工夫して税の導入目的に沿った施策を展開できるよう、一定の財源を市町に交付する市町交付金制度を設けており、市町が小中学校などでの森林教育に活用することができます。

市町交付金を活用した森林教育実施の流れ



取組事例

①学校で実施できる事例

- ・ 森のはたらきなどについての座学
- ・ クラフト体験や木工工作
- ・ 校庭の樹木の名札付けや自然観察
- ・ 学校林での林業作業体験 など

②校外で実施できる事例

- ・ 県民の森や森林公園での森林体験
- ・ 宿泊を伴う体験活動での森林学習
- ・ 遠足での森林体験
- ・ 製材所等への社会見学など

※森のせんせい

三重県では、学校や地域で森林教育を行える方を「森のせんせい」として登録し、学校などに情報提供しています。情報の一部はみえ森づくりサポートセンターのホームページで公開しています。

※出前授業

市町交付金事業の対象とならない学校については、みえ森づくりサポートセンターが森林教育の出前授業に伺います。詳しくはお問い合わせください。
※年間10校程度を予定

目 次

1	森林の話と箸づくり 桑名市立多度東小学校	5
2	森林と私たちの暮らし ～地元の木で箸を作ろう～ 桑名市立長島北部小学校	6
3	冬の森林散歩 東員町立城山小学校	7
4	森林のはたらきと林業、木を使う意義について 四日市市立富田小学校	8
5	内部東SDGsプロジェクト ～学習の森の再生に向けて～ 四日市市立 ^{うつべひがし} 内部東小学校	9
6	森のはたらきを知ろう 県産材を使おう ～学校のロッカーの引き出しをつくろう～ 亀山市立亀山南小学校	10
7	森のはたらき 津市立 ^{すぐり} 村主小学校	11
8	森林・林業について学ぶ ～林業体験を通じて～ 松阪市立南小学校	12
9	森林のはたらきを知ろう ～キーホルダー作り～ 多気町立 ^{ときだ} 外城田小学校	13
10	わたしたちが引き継ぐ！自然豊かなふるさと ～山からのメッセージ（木ホルダー作り）～ 明和町立 ^{かみみいと} 上御糸小学校	14
11	森林や木材について学ぼう ～コースター作りを通して～ 伊勢市立中島小学校・宮山小学校	15
12	ラブリバー公園を探検しよう（初夏～秋編） 伊勢市立中島小学校	17
13	クップを体験しよう 伊勢市立宮山小学校	18
14	「くすの木さん」であそぼう 伊勢市立 ^{ひがしおいず} 東大淀小学校	19

15	ラブリバー公園を探検しよう（秋～晩秋編） 伊勢市立城田 <small>きだ</small> 小学校……………	20
16	マイ箸を作ってみよう！ 玉城町立有田 <small>うだ</small> 小学校……………	21
17	森林のはたらきを学ぼう ～加茂の森林を守るためにできること～ 鳥羽市立加茂小学校……………	22
18	森のはたらきとは？ 林業とは？ 森のせんせいとの出会いから学ぼう！ 伊賀市立神戸 <small>かんべ</small> 小学校……………	23
19	森林と林業について知ろう 四日市市立塩浜中学校……………	24
20	森の役割を知ろう、木の箸を作ろう 鈴鹿市立白鳥 <small>しらとり</small> 中学校……………	25
21	美杉産のスギ間伐材を使った木工品づくりに向けて 津市立橋北 <small>きょうほく</small> 中学校……………	26
22	地域活性プロジェクト「大台町の循環資源について」 ～シイタケ栽培 菌打ち・本伏せ体験を通じて～ 三重県立昴学園高等学校……………	27
23	伝統構法・土壁の製作体験 ～地域の気候風土に根ざした伝統技術を学ぶ～ 三重県立伊勢工業高等学校……………	28
24	ネイチャーゲーム体験 津田大山田幼稚園……………	29
25	木となかよしになろう！ 玉城町立田丸保育所……………	30
26	里山体験キャンプ 四日市市少年自然の家……………	31
27	身近な地球温暖化を学ぶ活動 ～森林公園の芝生広場にモミジを植えよう～ 松阪市森林公園……………	32

01

森林の話と箸づくり

桑名市立多度東小学校



木の匂いや手ざわりを体験しました



木材の話や多度山の話听取了



小刀で削っています



みんなで箸を持つてはいい！チーズ！！

ねらい

- ・ 森林のはたらきと林業、木を使う意義を知る
- ・ 木材を使うことの良さ、木の加工のしやすさを学ぶ
- ・ 近くの多度山をもっと好きになる

取組内容

森林のはたらきや木を使う意義を知るために、総合的な学習の時間に、森のせんせいから森林の話听取了、箸づくりを行いました。

はじめに、森林のはたらきや林業のこと、木材の特徴について教えてもらいました。実際のスギの葉や木の年輪を見せてもらいました。また、多度山や木材が身近にあるという話を聞き、子どもたちは身近にある木に興味を持つことができました。

その後、小刀やサンドペーパーを使い、箸を作りました。小刀を使ったことのない児童も多く、一生懸命木を削って、箸を作りました。削った箸にサンドペーパーをかけ、マジックでデコレーションをして、油を塗りました。

実際に見たり聞いたり体験したりすることで、木材への興味を持ち、物を大切にすることの大切さを学ぶことができました。

内容	・ 森林や林業の話 ・ マイ箸作り
時間	2 時間（総合的な学習の時間）
場所	教室
対象	4 年生 11 人 5 年生 4 人
講師	森のせんせい：林篤寿氏 森のせんせい：山根由士氏
備考	みえ箸づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

【先生のコメント】 体験から1か月ほど経ちましたが、「家でごはんを食べる時に使っている。あの箸大切に使っているよ。」と子どもたちが笑顔で言っています。より木を身近に感じられたと思います。

森林と私たちの暮らし ～地元の木で箸を作ろう～

02

桑名市立長島北部小学校



大径木用チェーンソー。大きくてびっくりしました。



さまざまな形の木の葉に子どもたちは興味をもっていました。



初めて使うカンナで箸を作りました。



世界に一つだけの箸を作ることができました。

ねらい

- ・森林のはたらきや林業について知る
- ・木を使うことで、木や森が元気になることを知る
- ・実際に地域の木にふれ、木に親しむ

取組内容

社会科「森林とわたしたちの暮らし」の単元の予習という形で、森林のはたらきや、林業の仕事について教えてもらいました。途中で今日の学習内容に関するクイズを入れながら、子どもたちは一緒に考えて話を聞いていました。

地域の木材をご用意いただき、箸づくりに取り組みました。初めてカンナにふれる子がたくさんいましたが、専用の台を用意していただき、上手に削っていました。講師にサポートいただき、全員箸を完成させることができました。

「学校で使いたいな。」「箸入れも作ろうかな。」と自分で作った箸に大興奮していました。

【先生のコメント】 ・林業を生業とする先生から実際にお話を聞くことができ、貴重な体験となりました。
・様々な木の葉をご用意いただき、子どもたちは興味をもって葉っぱを観察していました。

内容	・森林や林業の話 ・マイ箸作り
時間	2 時間（社会科・図工科）
場所	多目的室
対象	5 年生 19 人
講師	森のせんせい：出口省吾氏 森のせんせい：山根由士氏
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

03

冬の森林散歩

東員町立城山小学校



森のせんせいから木についての話を聞きました



教室で森について学びました



樹木名板作り



フユイチゴの実

ねらい

- ・身近な森にどんな木々があるかを知る

取組内容

普段はなかなか入れないけれど、身近にある森の中に入り、散歩しながら、そこにある木々について名前や特徴などを教えてもらいました。中には、食べられるものもあり、興味を持って参加することができました。

教室に帰ってからは、日本には森がたくさんあること、その森は水をたくわえるダムとしての役割や地球温暖化防止の役割があること、そして、森の多くは人間が手入れしながら守っていかなければならないことなどを教えてもらいました。

最後には、森のせんせいが丸太を輪切りにして作った樹木名板に、観察してきた木の名前を一人ひとりが書きました。

樹木名板は、一週間後に森のせんせいがそれぞれの木に掲げてくれました。

内容	・樹木観察 ・樹木名板作り
時間	2 時間（総合的な学習の時間および社会科）
場所	西桑名ネオポリス内の企業の森、教室
対象	5 年生 30 人
講師	森のせんせい：認定NPO法人 森林の風
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

【先生のコメント】 森に入るきっかけをいただき、ありがとうございました。「取組内容」に書かせてもらいましたように、この活動はまだ始まったばかりで、終結したものではないので、これから継続して森に入って活動し、もっともっと森に興味を持てるようにしたいです。

04

森林のはたらきと林業、木を使う意義について

四日市市立富田小学校



森林の役割・木材について興味深く学習できました



「サンドペーパーで木が削れる？」意外と簡単に形が整いました



丸太切りした木の年輪を数えてみました



思っていたよりかなり丸太が堅いことを知りました

ねらい

- ・ 県内の森林・林業の現状や森林のはたらきについて知る
- ・ 県産材を使う意義を知る
- ・ 県産材を使ってマイ箸作りを行い、木の良さを感じ、木に親しむ

取組内容

5年生の社会科で扱われる「森林学習」の予習として、森林の役割や林業の現状、木材について学ぶことができました。

特に、地球温暖化防止や土砂崩壊防止のために森林が重要であることや、海外での森林伐採のために起こっている災害の実態・衛星写真から見た砂漠化している地域などを紹介していただき、子どもたちにとっては現状を知る良い機会になりました。そして、森林を保全していく重要性を理解して、間伐材や端材を利用した割り箸を使うことは環境に良いと学ぶことができました。

丸太切りの体験では、簡単に切ることができると考えていた子どもたちは、1本の丸太を切ることに、かなりの力と時間がかかることを知ることができました。

県産材のスギの角材を使い、サンドペーパーで箸の形に整える方法で「マイ箸」を作りました。どの程度の力で削ったら良いのか考えながら活動し、意外と加工しやすい木の性質を感じるすることができました。

内容	・ 森林や林業の話 ・ マイ箸作り
時間	2 時間（総合的な学習の時間）
場所	体育館、教室
対象	5 年生 113 人
講師	森のせんせい：三栄林産株式会社
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

【先生のコメント】 森林や木材について身近に感じるすることができました。家でも自分の作った箸を使っていると嬉しそうに報告する子どももいました。3学期の森林の学習で、子どもたちが理解しやすくなりました。

05

内部東SDGsプロジェクト ～学習の森の再生に向けて～

うつべひがし
四日市市立内部東小学校



学習の森にある植物の名前やその生態について学習



伐採の方法を教えてもらう



伐採方法の実演



キーホルダー作り

ねらい

- ・SDGsを達成するために、里山保全を通して、環境問題について考える
- ・本校の森である学習の森を今後活用できるようにするために、自分たちにできることは何かを考え、行動することができる

取組内容

本校にある「学習の森」の植物について学習するとともに、その森の役割や保全していくための方法について学習しました。

前半は、森にある植物の名前を教えてもらった後、伐採の方法を教えてもらいました。実際にチェーンソーを使っている様子を見て、驚いている子どもがいました。

後半は木に絵を描き、キーホルダー作りを行いました。子どもたちはキーホルダーを作るなかで、木の感触や香りを実感していました。

後日、実際に学習の森に入り、教えてもらった植物を探しに行く活動を行いました。子どもたちは学習の森にある植物に興味をもち、教えてもらった以外の植物を見つけると、どんな植物なのか興味をもって調べようとする姿が見られました。

内容	・学習の森（学校林）についての里山学習 ・キーホルダー作り
時間	2時間（総合的な学習の時間）
場所	なかよしホール、図工室
対象	6年生 71人
講師	森のせんせい：出口省吾氏 森のせんせい：グリーンボランティア森林づくり三重
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

【先生のコメント】 植物の名前はもちろんです、伐採の方法について教えてもらうことができました。そのため、10月下旬に子どもたちで伐採しに行った時もそのことを友達同士で伝え合って、伐採している姿がみられました。

06

森のはたらきを知ろう 県産材を使おう ～学校のロッカーの引き出しをつくろう～

亀山市立亀山南小学校



森林や林業の話（5年生）



引き出し作りの説明（5年生）



森林や林業の話（6年生）



できあがった引き出し



引き出し作りの様子（6年生）



引き出しの持ち手

ねらい

- ・ 林業や森林のはたらきを学び、森林の大切さを知る
- ・ 県産材を使ってロッカーに入れる引き出し作りを行い、木の良さを感じ、木に親しむ

取組内容

亀山南小学校は、緑化活動として、花壇、教材園、樹木、運動場の芝生整備に力を入れ、自然に親しみ、感性豊かな子どもの育成に努めてきました。

はじめの座学では、森のせんせいから森林のはたらきや林業の話聞き、改めて森林の大切さ、林業のサイクルや現状、林業で工夫していることなどを学ぶことができました。林業や適切に管理された森林、木製品を使うことは地球温暖化防止等につながることを理解できたので、社会科の学習だけでなく、生活にも活かしていきたいです。

次の制作活動では、県産のスギ材を用い、引き出し作りを教えてくださいました。森のせんせいのていねいな指導とすがすがしい木材の香りに包まれ、子どもたちは、引き出しの枠の部分を手助け合いながら熱心に作ることができました。次に底の板を3枚張り合わせて、頑丈な箱ができました。最後に、引き出しの持ち手を付けて完成。持ち手は、木の根を用いたもので、一人ひとりが自分の好きな形のものを選んでつけました。子どもたち一人ひとりに寄り添った温かい支援をしていただき、全員が完成することができ、世界に一つだけの『自分の引き出し』を作ることができました。

内 容	・ 森林や林業の話 ・ ロッカーの引き出し作り
時 間	2 時間 30 分（社会科、図工科）
場 所	教室
対 象	5 年生 17 人 6 年生 19 人
講 師	森のせんせい：赤野充典氏 森のせんせい：山田史恵氏 補助講師：樋口貴広氏、横山竜太郎氏
備 考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

【先生のコメント】 森林の大切さを改めて学ぶことができました。ロッカーの引き出しは、毎日、大切に使っています。整頓ができてとても助かっています。

07

森のはたらき

すぐり
津市立村主小学校



自分たちで作ったペンダント



年輪を見て、数えている様子



色々な種類の木を見せてもらっているところ



トクサをやすりとして磨いています

ねらい

- ・ 森林教育を通して、森のはたらきを知ったり、間伐材の利用について考えたりすることができる

取組内容

森のはたらきや、林業について教えてもらいました。実際の丸太や色々な種類の木を持ってきてもらったので、年輪を数えたり、実際にふれたりして学ぶことができました。

その後、仕事に対する考え方や、森がどのようなはたらきをしているのかなどのお話を聞くことにより、森林のはたらきへの関心が高まりました。

2時間目は、図工室で間伐材を使ったペンダント作りを体験しました。サポートセンターの方にも手伝ってもらい、自分たちでナタやノコギリを使って木を切り、ペンダントを仕上げることができました。

【先生のコメント】 森のせんせいや、サポートセンターの方が丁寧に説明し、実物を見せていただいたので、一人ひとりがとても楽しく活動させてもらうことができました。

ナタを使うことは初めてで、緊張してしまった児童もいましたが、自分のペンダントが完成するにつれて、とてもうれしそうにしていました。出来上がったペンダントをうれしそうにつけている姿や、見せ合う姿が印象的でした。

学習後、自分で森について調べる児童もいて、興味を持つことが出来ました。

内 容	・ 森林の話 ・ 間伐材を使ったペンダント作り
時 間	2 時間 30 分（総合的な学習の時間）
場 所	教室、図工室
対 象	4 年生 16 人
講 師	森のせんせい：柳田国男氏
備 考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

森林・林業について学ぶ ～林業体験を通じて～

08

松阪市立南小学校



森のせんせいからの講話



林業体験前の話



林業の装備の試着



スギの皮むき体験



ヒノキの枝の樹皮をむいてキー掛け作り

ねらい

- ・森林、林業について学ぶことにより、健康な森を守っていくことの大切さを知り、地域の自然環境への関心を持つ
- ・林業体験を通して、地域の森に関心を持ち、自分たちの暮らしと森林や林業についての関わりについての探究活動を行うきっかけとする

取組内容

子どもたちが暮らす地域は、森林が多く、自然が豊かです。また校区には、間伐材を利用する木質バイオマス発電所もあり、周辺には松阪飯南森林組合や国産材コンビナートであるウッドピア松阪等の施設もあります。しかし、子どもたちがふだん身近にある森林であそぶ機会や、林業を身近に感じる機会は少なくなっています。

そこで、森林のはたらきやそれを支える林業について森のせんせいに話を聞きました。森林を守っていくためには、間伐が必要であることや間伐作業について、実際に使う道具や作業の動画を見せてもらいながら学びました。

そして後日、実際に森林に出かけ、事前の動画撮影時に切り倒したスギの枝をはらい、木の皮をむく作業を体験してもらいました。夏の暑い中でしたが、どの子も夢中になって木の皮をむいていました。作業に慣れると木の皮がとてもきれいにむけることや、皮をむくと中は水分がたくさんありつるつるしていること、水分を含んだ木はとても重いことなどを体感する貴重な体験をすることができました。

内容	・森林や林業の話 ・森林見学と皮むき体験
時間	6 時間（講話 2 時間、林業体験 4 時間）総合的な学習の時間
場所	教室、森林（勢津町）
対象	5 年生 8 人
講師	森のせんせい：松阪林業研究会
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

【先生のコメント】 木の良さを感じ、森林を守っていこうと取り組む林業従事者の方の思いに触れ、「地域の森林を守るために自分たちに何ができるのか」と探究するきっかけとすることができました。

森林のはたらきを知ろう

～キーホルダー作り～

09

ときだ
多気町立外城田小学校



森のせんせいからの話



ノコギリの使い方



はじめてのノコギリ



キーホルダーを磨く

ねらい

- ・森林には、「水をきれいにしたりたくわえたりする」「地球温暖化や土砂災害を防止する」「生きもののすみかになる」「良好な景観を維持する」など、様々なはたらきがあることを知る
- ・木は伐っても、また植えて育てれば再生産可能な資源であり、伐った木を使うことで林業が成り立つことを知る
- ・木工の体験を通して、ノコギリやサンドペーパーを使って、身近な木材を加工して利用することができることを学ぶ

取組内容

森林のはたらきの学習では、森林には「水をきれいにしたりたくわえたりする」「地球温暖化や土砂災害を防止する」など様々なはたらきがあり、森林は人々が暮らしていく上でとても大切なことを学習しました。カキノキ、ミカン、スギ、ヒノキ、サクラなど身近な木の枝で、見た目や匂い、手ざわりなどを比べました。

キーホルダー作りでは、子どもたちは初めて使うノコギリで、「引くときに力を入れる。」という使い方を教えてもらい、ヒノキやミカンの木を切ることができました。サンドペーパーで磨き、木の表面をつるつるにするなど、ていねいに作業できました。一つひとつの色や、木目の模様が違って、世界に一つだけのキーホルダーを作ることができました。

【先生のコメント】 様々な森林のはたらきを知ることで、森林を守り管理していく大切さに気づけました。

キーホルダー作りでは、切ったときの木の香りや木目の模様、手触りなどを楽しみ、木の良さを感じることができました。

内容	・森林の話 ・キーホルダー作り
時間	3 時間 (社会科 1 時間、図工科 2 時間)
場所	教室、図工室
対象	4 年生 10 人
講師	森のせんせい：細渕芳弘氏
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

わたしたちが引き継ぐ！自然豊かなふるさと ～山からのメッセージ（木ーホルダー作り）～

かみみいと
明和町立上御糸小学校



100年生以上の木の紹介



ノコギリを使って木の断面の香りをかく



木ーホルダー作り



木をたたいて音を確認する

ねらい

- ・ 県内の森林・林業の現状や森林のはたらき、大切さを知る
- ・ 実際に木や葉にふれ、香りや感触など五感で感じる体験をする
- ・ 木の小物作りを通して、様々な種類の木があることを知り、木に親しむ

取組内容

座学では、森林の機能と木の生長のしくみのことや、林業の仕事などについて学びました。また、上御糸地区の地元の人に教わった「上御糸地区のお米のおいしさの秘密は飯高の森林にあり」の言葉の意味についても学びました。森林の安定が私たちの生活の基盤であることがわかり、大変意義のある時間となりました。

また、飯高の木や葉をたくさん持ってきてもらい、手ざわり、匂い、重さ、音などを確かめました。ノコギリを使って、切ったばかりの木の香りや手ざわりも感じました。輪切りにしたヤマザクラ、ケヤキ、クロモジ、クヌギ、カエデ、ヒメシャラなどに数種類のサンドペーパーをかけ、ひもを通して「木ーホルダー」を作りました。

【先生のコメント】 飯高で林業を営んでいる方の声を直接聞くことができ、大変勉強になりました。飯高の木や葉を持ってきていただき、香りや音を感じることができ、大変貴重な経験になりました。

内 容	・ 森林や林業の話 ・ 木ーホルダー作り
時 間	3 時間（社会科・図工科）
場 所	教室、図工室
対 象	5 年生 36 人
講 師	森のせんせい：叶林業合名会社
備 考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

森林や木材について学ぼう

～コースター作りを通して～

11

伊勢市立中島小学校・伊勢市立宮山小学校

宮山小（5年生）



森林や林業についての話



年輪を数える児童



丸太切りの実演



丸太切り体験

ねらい

- ・ 森のはたらきや人工林、天然林などの森の特徴、伊勢の森や林業、緑の循環について知る
- ・ 三重県産のヒノキの間伐材を使って丸太切り体験を行いコースターを作る

取組内容

- ・ 森林のはたらきや天然林、人工林、伊勢地域の森林や林業についての話を聞きました。木を切り倒す動画なども視聴し、林業について詳しく学ぶことができました。
- ・ 体育館には100年を超す樹齢の丸太やチェーンソー、山へ入るときの靴やヘルメットなどを準備していただき、年輪を数えたり、装備を着用したりする体験を行いました。
- ・ 宮川流域の森のせんせいの山から伐り出してきたヒノキの間伐材を用いて、丸太切り体験を行いました。「思っていたよりも大変」などと言いながら直径10cmほどの丸太を切っていました。
- ・ 自分で切った木材をサンドペーパーで磨き、お気に入りのコースターに仕上げました。中島小6年生、宮山小5年生は電熱ペンでデザインもしました。

内容	・ 森林と林業の話 ・ 丸太切り体験とコースター作り
時間	2 時間（社会科 中島小 5 年生） 3 時間（総合的な学習の時間 中島小 6 年生、宮山小 5 年生）
場所	体育館
対象	中島小学校：5 年生 44 人 6 年生 39 人 宮山小学校：5 年生 43 人
講師	森のせんせい：岡野こころ氏 森のせんせい：森下智彦氏 森のせんせい：森下ゆう子氏
備考	伊勢市教育委員会「豊かな心を育む体験交流活動推進事業」の「ふれる・つくる・かんじる自然体験プログラム」

中島小（5年生）



林業の話



道具を使ってみる



丸太切りの説明

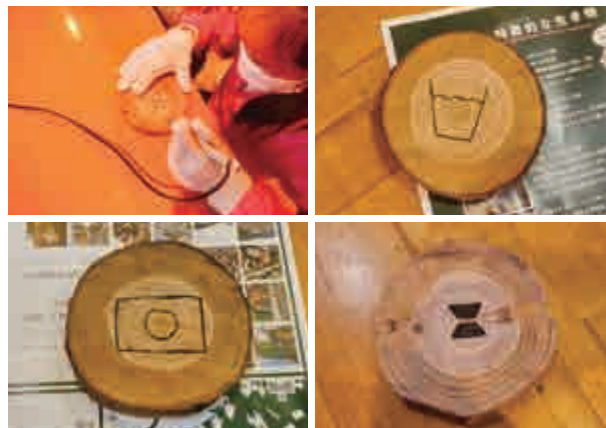


丸太切り体験

中島小（6年生）



年輪数え



作品

【先生のコメント】 中島小（5年生） 1時間目はパワーポイント、画像、動画、クイズなどがあり、楽しみながら理解を深めることができました。2時間目はとても楽しそうに体験することができ、どの児童も満足そうでした。これからも機会があれば実施していきたいです。

中島小（6年生） 林業の大切さを学習することができました。ノコギリを使って、丸太を切る体験は児童にとっては初めてで、とても楽しく活動ができました。今後も機会があれば実施していきたいです。

宮山小（5年生） 林業の大まかな内容・作業の流れ・現状・社会的価値・苦心する点・楽しい点など様々なことを教えていただきました。

日本を代表する木材であるスギ、ヒノキはまっすぐ伸びて丈夫なので建材としては最適であり、それを50年以上かけて成長を見守り、社会に送り出す…。それまで目の前にあるただの木材としてしか見ていなかったのに、その背景にはそんなスケールが大きい事業が関わっていたことを感じさせてくれる教材でした。

社会にある様々な仕事に触れあうキャリア教育の一環としても意義のある内容となりました。

12

ラブリバー公園を探検しよう（初夏～秋編）

伊勢市立中島小学校

（1年生）



落ち葉をかき分け、虫を発見



葉っぱを使ったネイチャーゲーム



木についてのドングリの実を観察

（3年生）



木を囲み、木の太さを体感



木の実の観察



木についているクルミの実を探す様子

ねらい

- ・ラブリバー公園で季節の植物や生きものをみつけたり、ネイチャーゲームを通して自然体験を楽しむ
- ・環境や森林を守るための学習をする

取組内容

最初に講師から、伊勢地域の森林の特徴や自然を守る大切さなどの話を聞きました。その後、4つの体験エリアで講師の話を聞いたり体験をしました。

（1年生：秋に実施）

はじめに、耳を澄ませ音を聴く活動で五感を研ぎ澄ませることができました。また、モミジを使ったプロペラ遊びやドングリのコマ回しなどの自然遊びも楽しみ、紅葉した葉っぱを使って色合わせをしたり、大きな葉っぱや虫に喰われた葉っぱなど特徴に注目してネイチャーゲームを楽しみました。

（3年生：初夏に実施）

クルミの広場で落ちた実から新芽を出しているのを見つけ、その広がりを見ることで植物がいのちをつなぐための工夫をしていることを学びました。また、耳を澄ますことで鳥のさえずりや風で木の葉がゆれる音などを感じ、五感の感覚を高める活動を行ない、葉っぱの形や色に注目してビンゴを行うなど、ネイチャーゲームも楽しみました。

内容	・森の話 ・自然観察と自然あそび体験
時間	2 時間（生活科 1 年生） 4 時間（理科 3 年生）
場所	宮川ラブリバー公園
対象	1 年生 39 人 3 年生 52 人
講師	森のせんせい：岡野こころ氏 森のせんせい：藤川和彦氏 森のせんせい：宮本秀明氏 伊勢志摩国立公園管理事務所：半田俊彦氏、黒川慶伊氏、天満理恵氏
備考	伊勢市教育委員会「豊かな心を育む体験交流活動推進事業」の「ふれる・つくる・かんじる自然体験プログラム」

【先生のコメント】（1年生）身近な場所でいろいろしていただいたので驚きや発見も多かったです。児童たちはとても楽しそうに体験し、活動を行っていました。これからも実施していきたいです。
（3年生）児童は楽しくゲームをする中で木々が成長していく様子を知ったり、虫をみつけてさわって五感で自然を感じることができました。
身近な自然に触れられるととてもいい機会になりました。今後も実施していきたいです。

13

クップを体験しよう

伊勢市立宮山小学校



森林のはたらきや林業の仕事についての話



副読本を参考にしながら話を聞く児童



クップ体験の様子



リーグ戦の最後に行った表彰式

ねらい

- ・森林のはたらきや林業について学ぶ
- ・クップの由来やルールなどを知る
- ・実際の木材にふれ、木の良さを五感で感じながらスポーツを楽しむ

取組内容

- ・クップ体験を行う前に、森林や林業について話を聞き、三重県や身近な伊勢市の森林について学びました。
- ・各学年8チームに分けて、3試合ずつゲームを楽しみました。
- ・初めてクップを体験しましたが、試合を重ねるごとに上達し、楽しむことができました。
- ・木の重みや手ざわり、香りをかぐなど、木材を五感で感じながらスポーツを楽しむことができました。

内容	・森林の話 ・クップ体験
時間	2 時間（総合的な学習の時間）
場所	運動場
対象	4 年生 41 人 5 年生 43 人
講師	森のせんせい：三重県クップ協会 伊勢農林水産事務所職員
備考	伊勢市教育委員会「豊かな心を育む体験交流活動推進事業」の「ふれる・つくる・かんじる自然体験プログラム」

【先生のコメント】 児童は初めてのスポーツでしたが、ルールの呑み込みが早く、仲間と喜んだり、アドバイスしたりして楽しんでいました。

たくさんの方にサポートいただいたおかげで進行もスムーズでした。

外で森林の話をしていただきましたが、興味を持って聞くことができました。

14

「くすの木さん」であそぼう

ひがしおいず
伊勢市立東大淀小学校



クスノキの葉っぱの観察



クスノキのペンダント作成



クスノキくぐり



「くすの木さん」の観察



クスノキブランコであそぼう

ねらい

- ・運動場のクスノキを教材として活用し、地域の良さや課題を自分の事として捉えられ、地域を語れる子どもを育てる

取組内容

第1回クスノキ学習では、クスノキの観察をして特徴をとらえました。

第2回クスノキ学習では、1限目に「くすの木さん」の観察をしてから、枝から吊るしたブランコに乗ったり、幹をくぐったりして、「くすの木さん」と遊びました。2限目は教室に戻り、クスノキの枝でペンダント作成を行いました。教室には、クスノキの匂いがほんのりと香りました。

第3回は、クスノキを使って「しょうのう」を作成する予定です。

普段くすの木さんと共に生活していますが、その特徴や活用法（しょうのう）を知り、クスノキでものづくりをすることで、くすの木さんをより大切に思う児童を育て、豊かな心の醸成を図る事ができました。

内容	・クスノキの観察とあそび体験 ・クスノキのペンダント作り
時間	3 時間（総合的な学習の時間）
場所	運動場、教室
対象	4 年生 12 人
講師	環境省自然公園指導員：宮本秀明氏 自然観察指導員：藤川和彦氏
備考	伊勢市教育委員会の「豊かな心を育む体験交流活動推進事業」の「ふれる・つくる・かんじる自然体験プログラム」

【先生のコメント】 くすの木さんをいつも身近に感じながら生活していますが、改めて観察を行うことで、くすの木さんの様子を肌で感じ、大切に思う児童が育ちました。

15

ラブリバー公園を探検しよう（秋～晩秋編）

伊勢市立城田きだ小学校

（1年生）



ドングリを使ったコマ回し体験



葉っぱを詳しく観察する様子

（3年生）



友だちと手をつなぎ木の太さを体感



落ち葉を巻き上げ楽しむ様子



宮川の生きものについて学ぶ様子



落ち葉や枝、木の实を使って作った先生の顔

ねらい

- ・ラブリバー公園で季節の植物や生きものをみつけたり、ネイチャーゲームを通して、様々な自然体験を楽しむ
- ・環境や森林を守るための学習をする

取組内容

1年生は最初に講師から伊勢地域の森の話聞いてから、4班になり、各班に森のせんせいが付いて4つのエリアを体験しました。3年生は4つのエリアに森のせんせいが居て、各エリアを移動しながら森の話や体験をしました。

（1年生：秋に実施）

はじめに、耳を澄ませ音を聴く活動で、五感を研ぎ澄ませることができました。また、アケビ・ドングリなど季節にちなんだ植物を見つけることができ、クスノキの実や葉の香りをかぎ、その香りが昔から生活に活かされていることを知って、学校のシンボルツリーである「クスノキ」の学習につなげることができました。

（3年生：晩秋に実施）

公園に落ちている木の实を使って、紙皿に色を付け、実の色と発色の違いを楽しみ、クルミの実やクスノキの枝や実など、公園で見つけたものを使って学校の先生の似顔絵を描くことで、実や枝などの特徴をよく観察することができました。また、ラブリバー公園を流れる宮川の生きものについて、クイズ形式で勉強し、森と川がつながり海に栄養が送られていることを学びました。

内容	・森の話 ・自然観察と自然あそび体験
時間	2時間（生活科 1年生） 2時間（総合的な学習の時間 3年生）
場所	宮川ラブリバー公園
対象	1年生 43人 3年生 40人
講師	森のせんせい：岡野ころろ氏 森のせんせい：藤川和彦氏 森のせんせい：宮本秀明氏 森のせんせい：森川貴史氏 伊勢志摩国立公園管理事務所：黒川慶伊氏、天満理恵氏
備考	伊勢市教育委員会「豊かな心を育む体験交流活動推進事業」の「ふれる・つくる・かんじる自然体験プログラム」

【先生のコメント】（1年生）広々とした自然の中で、森のせんせいと出会い、環境や森林について体験を通して貴重な学びを得ることができました。

（3年生）教室の座学では体験できない活動なので、とても有意義でした。

普段気づかなかつたり、見過ごしたりしてしまう自然や音などに目を向けることができました。

宮川にいる生きものについて教えていただけて、子どもたちが興味を持つきっかけになりました。

16

マイ箸を作ってみよう！

うだ
玉城町立有田小学校



森のせんせいの話



年輪を数える「この木は何歳かな」



木や葉の匂いをかぐ。「どの葉とペアかな」



マイ箸作り



クイズ

ねらい

- ・ 森林のはたらきや木の生長する仕組みを知る
- ・ 木にふれて、加工の容易さを知る
- ・ 自分で作る達成感を感じる

取組内容

はじめに、森のせんせいから、森林や木についての話を聞きました。森林は、動物などの棲みかとなり、二酸化炭素を吸収して空気をきれいにしていることや、木は、吸収した炭素で大きくなり夏と冬の生長の違いで年輪ができ、その年輪を数えると年齢が分かること、土砂災害を防止するはたらきをしていることを写真や映像も見せていただきながら学びました。

実習1では、数種類の木の葉と木の幹の断面の「匂い」をかいで、どの葉の材かを当てるクイズをしました。子どもたちは、実際に木の葉や幹の断面にふれ、匂いをかぎ、それぞれに違う木の特徴を楽しみながらクイズを通して考え、知ることができました。

実習2では、マイ箸作りを行いました。はじめに木材の角をカッターナイフで削り、好みの太さにしてから、サンドペーパーをかけて表面を仕上げました。油性のカラーペンで絵や文字を描き、コーティングの油を塗っていただきました。木材を削るのに時間がかかったため、絵付けとコーティングは、別の時間に行った子どもたちもいましたが、サンドペーパーをかけるところまでは全員が行うことができました。

内 容	・ 森林の話 ・ マイ箸作り
時 間	1 時間 40 分（総合的な学習の時間）
場 所	教室
対 象	5 年生 28 人
講 師	森のせんせい：いせしま森林組合
備 考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した町事業「森林環境教育・木育事業」

【先生のコメント】 たくさんの木の葉の「匂い」をかいたり、年輪を数えたり、マイ箸を作ったりと、初めての体験がたくさんあって、森林を身近に感じるとともに、大切さにも気づくことができた機会となりました。

森林のはたらきを学ぼう

～加茂の森林を守るためにできること～

鳥羽市立加茂小学校



迫力ある実演でした



森のはたらきについてわかりやすく教えられました



慣れない小刀でしたが、だんだん上手に使えるようになりました



木目の入り方について教えてもらいました

ねらい

- ・ 森林や木、木材について楽しく学びながら興味をもち、理解を深める
- ・ 地元加茂地区の自然の豊かさや良さに気づく

取組内容

水産業が盛んな鳥羽市の中で、本校のある加茂地区は豊かな森林に囲まれた地域です。しかし、なかなか子どもが森林にかかわる機会が少ないのが現状です。そこで取組では、森のせんせいから森のはたらきや木の性質、海と森とのつながりについて教えてもらいました。子どもたちは2学期に鳥羽市の水産業についても学習していたので、豊かな海には豊かな森の自然が欠かせない、ということについては興味深く聞き入っていました。

チェーンソーを使った丸太切りの実演では、子どもたちは実際に使われている装備に興味津々でした。また、切られたヒノキの香りに「いいにおい。」と思わず声があがっていました。

内容	・ 森の話 ・ マイ箸作り
時間	3 時間（総合的な学習の時間）
場所	校庭、教室
対象	5 年生 18 人
講師	森のせんせい：いせしま森林組合
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

【先生のコメント】 実際に木を切る様子を見たり、森のせんせいの仕事に対する思いに触れたりすることで、森とのかかわり方をそれぞれの子どもたちが考えようとする姿がありました。この学習をきっかけにしてさらに森林学習を深めることができました。

森のはたらきとは？ 林業とは？ 森のせんせいとの出会いから学ぼう！

伊賀市立^{かんべ}神戸小学校



森のはたらきや林業について



丸太切り体験



森のせんせいの話を聞いてメモを取る様子



できあがったコースター

ねらい

- ・ 林業の仕事を通じて森を守っていくことについて考える
- ・ 林業とはどのような仕事か、実際に働いている人から話を聞いて知る
- ・ 実演見学や体験を通して、林業の技術的なところを学ぶ

取組内容

社会見学として上野森林公園で実施しました。

まず、森のせんせいから、パワーポイントでの説明やスギやヒノキの葉を見せてもらいながら、森のはたらきや林業の仕事の内容についての話を聞きました。そのことから、森の果たす役割や林業の仕事の大切さについて学びました。特に子どもたちに印象に残ったのは、人工林には間伐が必要であるという内容でした。

また、実際の仕事現場の様子の動画を見せてもらったのも印象に残りました。

次に、チェーンソーの玉切り実演を見学しました。チェーンソーの刃を切りたい木に対して上か下かどちらから入ると良いかなど場面を説明してもらいながら見学しました。

そして、その後、体験活動をしました。丸太切りでは、スギとヒノキでは、ノコギリでの切りやすさや香りのちがいを感じることができました。森のせんせいに「上手だね。」などよく声をかけてもらったことで、子どもたちもうれしそうに、真剣に取り組んでいました。自分で切り出したスギやヒノの表面をサンドペーパーで磨き、コースターができ上がったときは、どの子も満足していました。

【先生のコメント】 森のはたらきや林業についての話を聞いている時には、講師の方の話し方もとっても上手で、子どもたちも楽しみながら、よく考え、受け答えをして学ぶ様子が見られました。体験活動では、感触や香りから木材のよさを感じ取ることができたのがよかったです。この機会に林業に将来の職業として興味を持った子もいました。

内容	・ 森林や林業の話 ・ 丸太切り体験とコースター作り
時間	1 時間 30 分程度（社会見学）
場所	三重県上野森林公園 （ビジターコテージ研修室、芝生広場）
対象	5 年生 9 人
講師	森のせんせい：伊賀森林組合
備考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した市事業「伊賀の森っこ育成推進事業」

19

森林と林業について知ろう

四日市市立塩浜中学校



森のせんせいによる森林と林業の講話



チェーンソーの実演



間伐材を利用した思い思いの作品作り 左：椅子・テーブル作成中 右：キーホルダー作成中

ねらい

- ・ 森林の働きを学び、自然と人間が共生していくことの大切さを知る
- ・ 県産材で作品を作り、道具の使い方やものづくりのたのしさを学ぶ

取組内容

はじめに、森のせんせいから森林の持つ機能と林業に関する講話を聞きました。森林そのものがSDGsに貢献し、林業・木材産業が、森林の整備・保全に役立っているということを知りました。また、人工林では、間伐が必要であることや県産材を使うことで身近な環境が守られていることを教わりました。

次に、実際に林業で使用されている道具や、丸太をチェーンソーで切断する実演を見て、森林の中で安全に作業を行うための工夫を感じました。

最後に、それぞれのアイデアで間伐材を使用した椅子やペン立て、キーホルダー等の作品を作りました。木の香り、木の感触、木の種類に興味を持ちながら、制作することができました。

内容	・ 森林や林業の話 ・ 間伐材を利用した木工作
時間	2 時間 30 分（技術科）
場所	技術室
対象	2 年生 23 人
講師	森のせんせい：渡部壮一郎氏
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

【先生のコメント】 森林の少ない下流の地域も、林業生産活動と森林の機能により土砂災害や洪水から守られていることに驚いていました。コロナ禍で実際に里山保全（自然教室）を体験することができませんでしたが、今回の活動で森林や林業に興味や関心をもつ良い機会となりました。

森の役割を知ろう、木の箸を作ろう

しらとり
鈴鹿市立白鳥中学校



葉を見てスギとヒノキを当てるクイズに挑戦



森のせんせいから箸の削り方のポイントを聞く



初めてのカンナかけ



完成した箸を前に取組のまとめ

ねらい

- ・身近にある木や森の働きを学び、自分たちの環境に重要な役割を果たしていることを知る
- ・作業学習（木の箸作り）の体験とともに自分で作った箸を自分で作る「お弁当の日」に活用する

取組内容

身近にある山林の現状とその役割について、森を育て、木を使っている森のせんせいから説明を受けました。また、スギ、ヒノキ、ケヤキ、ヤマザクラなどの木を用意していただき、手ざわりや匂いなどを直接確かめ、木の性質に応じた利用について学習を進めることができました。

後半では、2種類の木を使って、自分の箸をつくる活動を行いました。家に帰ってからも手直しをしたり、箸置きを作ったりする子どももいて、ものづくりの魅力がうかがえました。また、お弁当の日だけでなく、日常的に大切に使うことにつながりました。

内容	・森林や林業の話 ・マイ箸作り
時間	100分（総合的な学習の時間）
場所	木工室
対象	特別支援学級生 (1年 4人 2年 3人 3年 2人)
講師	森のせんせい：三栄林産株式会社
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

【先生のコメント】 映像を使った山林の役割の説明はわかりやすかったです。また、木材に直接触れることで、子どもたちの関心が高まりました。木の箸づくりでは、保護者の参観もあり、親子での会話も楽しむことができました。

美杉産のスギ間伐材を使った木工品づくりに向けて

津市立橋北中学校
きょうほく



大工・建築の話



チョウナの話



カンナがけ体験



メモを取っている様子



皮むき作業

ねらい

- ・ 県内の森林・林業の現状や森林の働き、大切さを知る
- ・ 古民家をはじめ建築と木材の関わりを知る
- ・ 美杉産材を使って木工品づくりを行うにあたり、木の性質とその良さを感じ、木に親しみ、地元産材を使う意義を知る
- ・ 木工作の基本である、道具（カンナ）の使い方を体験する

取組内容

三重県産の木材を中心に家づくりを行っている森のせんせいのお話を聞いた後、カンナがけの実演をしてもらい、時間の限りカンナがけの体験もしました。

生徒の感想文より

「昔ながらの家のつくりを現代にも生かして、お家を建てていることが分かりました。そして、その際に使う“チョウナ”という道具について、初めて見るものだったのですごいなと感じました。そして、その“チョウナ”で削った木を触ってみるとぬれているような湿っているような感じでした。また、匂いは独特で嗅いだことのないような香りでした。この“チョウナ”を利用したお家、特に古いお家で使った跡が見られそうなのでいつか見つけられたら良いと思います。そしてもう一つカンナ削りを見せてもらいました。カンナ削りは、ほんの少しの調節がとっても大切で、とっても難しいんだなと思いました。削った木の感触は思ったより硬くてびっくりしました。カンナ削りは水はじきが良く、繊維をとってもきれいにする大切な役割があるんだなと思いました。この授業で本当に良い経験ができたなと思いました。」

内 容	・ 大工の話 ・ カンナがけ体験
時 間	2 時間 (技術科および総合的な学習の時間)
場 所	体育館
対 象	1 年生 6 クラス 206 人
講 師	森のせんせい：高橋一浩氏
備 考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出前授業

【先生のコメント】 技術の授業で、美杉産のスギの間伐材を使って、木製品を制作している意義を感じてもらえたり、カンナの削りくずを消臭効果や脱臭効果があるという大切にしてもらえたりしています。

地域活性プロジェクト 「大台町の循環資源について」

～シイタケ栽培 菌打ち・本伏せ体験を通じて～

三重県立昴学園高等学校



本伏せ作業の説明



仮伏せ状況



校内、本伏せ



校内、本伏せ



本伏せ土台作り作業



本伏せ

ねらい

- ・大台町の豊かな森林から出る間伐材等の利用方法について学ぶ
- ・間伐材や支障木を活用し、地域活性化を促進する
- ・菌打ち、本伏せ作業等を通じて、シイタケ栽培方法について理解を深める

取組内容

昴学園高校の位置する多気郡大台町は面積の9割以上が森林であり、自然豊かな地域です。本校では昨年度から「林産物利用」という科目を中心に森林資源の循環利用と林業、木材加工について学習し、木材の利用方法や性質、加工について学んでいます。

本校では、昨年から地元の方の協力を得て、森林から出された間伐材等を有効利用して、シイタケ等の栽培に取り組んでいます。昨年は原木運びを行い、シイタケ等の種菌打ちを経験させていただき、仮伏せを行いました。今年はその原木の本伏せを校内にて行い、収穫できるのか楽しみにしています。

菌打ちを行ったキノコについては、5種類あり、ナメコ・シイタケ・マイタケ・ヒラタケ・アラゲキクラゲの菌を実験的にミズナラ、クヌギ、クリ、ヤマザクラ、アカメガシワの原木に打ち込み体験を行いました。また打ち込みだけでなく、マイタケの菌床を地中に埋め込む方法も教えてもらい、今までにないキノコ栽培について新たな経験や楽しさを発見することができました。

内容	・間伐材の利用についての学習 ・キノコの栽培
時間	4 時間
場所	フォレストピア横の人工林、校内
対象	総合学科環境技術系列 2 年次生 10 人
講師	大台町森林課、宮川森林組合
備考	総合学科環境技術系列 2 年次生の「林産物利用」の授業

【先生のコメント】 地元の産業を知り、大台町の魅力である森林の大切さや必要性を理解し、これからの社会に求められている循環資源について、特徴やその意義について理解を深められたのではないのでしょうか。今後、大台町で林業系に従事する生徒が出てくれることを期待し、今後もこの活動を続けて行きたいです。

伝統構法・土壁の製作体験

～地域の気候風土に根ざした伝統技術を学ぶ～

三重県立伊勢工業高等学校



土壁枠材の製作



「竹小舞」の製作



土壁塗りの様子



破壊試験の様子

ねらい

- ・地域の自然素材を活かした日本の伝統構法について学ぶ
- ・建築士、左官職人の指導のもと、ものづくりの魅力を体感する

取組内容

当校では、卒業生でもある東原建築工房の東原達也さんを講師に招き、木造建築に関する様々なテーマを設定し、課題研究に取り組んでいます。

令和3年度は、「土壁」をテーマとし、地域の気候風土に適応し、その土地の自然素材を活かす伝統構法について学ぶとともに、実物大の土壁の製作を行いました。

生徒たちは、職人講師陣の指導のもと、伝統構法による木材の加工、組立から、竹を編んだ下地づくり（竹小舞〈たけこまい〉）、土壁塗りまで全工程を経験し、土壁を完成させました。

また、三重県林業研究所の協力を得て、完成した土壁の強度を計測する破壊実験を行い、地震に対する土壁の強度特性についても学びを深めました。

通常のカリキュラムにはない伝統構法による木造建築を学ぶとともに、建築士、左官職人のプロの技術にふれる貴重な体験となりました。

内容	・木造建築の伝統構法についての学習 ・伝統構法の実践体験
時間	令和3年4月～令和4年1月
場所	伊勢工業高校建築科棟、三重県林業研究所
対象	建築科 3年生 9人
講師	東原建築工房：東原達也氏 工房カズ：西川和也氏 三重県農林水産部 森林・林業経営課 職員
備考	建築科3年生の課題研究

【先生のコメント】 全ての工程が初めての経験で、苦戦しながらも何とか完成させることができました。耐力壁の実験により、自分たちで製作した壁が、どれくらいの耐力があるのかを知れる良い機会でした。土壁を見る機会も少ない中、とても貴重な経験ができたと思います。

24

ネイチャーゲーム体験

津田大山田幼稚園



コナラ林での体験の様子



竹太郎と葉っぱじゃんけん体験

ねらい

- ・五感を使い、自然にふれ親しむ
- ・自然を通して感じたことや発見したことを友達と共感し合う

取組内容

森の中を園児たちが散策しながらネイチャーゲームを体験しました。コース内に2か所の体験ポイントを作り、講師がスタンバイし、30人前後に班分けした園児たちがポイントを訪れてくる度に体験を行いました。

1つ目のポイントはコナラ林の中で、森の中で深呼吸をした後に聞こえてくる森の音に耳を澄ませたり、どうして森の中は気持ちがいいのか考えたりしました。森の中の生きものやドングリについてのお話を聞いたり、ドングリ笛や草笛などのいろんな笛の音も聞きました。

2つ目のポイントは竹の生えている前で、葉っぱじゃんけんを体験しました。それまでの散策途中で葉っぱを3枚拾ってきてもらい、竹で作った竹人形の竹太郎と葉っぱじゃんけんを数回楽しみました。じゃんけんをしながら、大きな葉っぱ、小さな葉っぱ、ふわふわの葉っぱ、つるつるの葉っぱなど葉っぱにはいろんな形や手ざわり、色などがあることを園児たちは感じ取りました。

お天気も良く、園児たちは元気に楽しそうにポイント通過後の森の中の散策でもドングリを拾ったり、いろんな葉っぱを見つけては友達と見せ合いっこもしていました。

内容	・森林散策 ・ネイチャーゲーム体験
時間	2 時間（体験時間は各ポイント 15 分間）
場所	津田大山田幼稚園の森
対象	年長 130 人、年中 143 人
講師	森のせんせい：奥川次郎氏
備考	幼稚園カリキュラム 「ネイチャーゲーム体験」の時間

【先生のコメント】 園内の森では、普段から自然の遊びに親しんでいます。森のせんせい方に新しい遊びを教えていただき、子ども達は興味津々。目をキラキラさせながら参加していました。森の中で十分に五感を使って遊ぶことができました。ありがとうございました。

25

木となかよしになろう！

玉城町立田丸保育所



ノコギリで丸太切り体験



自分で切った丸太



拾い集めてきた木の実や枝、葉っぱを使ってオブジェ作り



ねらい

- ・五感を使って木にふれ、親しむ
- ・丸太切りをしてみよう
- ・森から拾ってきた木の実や枝や葉っぱを使って、オブジェ作りを楽しむ

取組内容

丸太切りでは、初めてノコギリを持ち、少しずつ少しずつ丸太を切っていました。機械とは違い、自分の力で切り進めていくことは大変で、一生懸命していました。切れた時には「やったあ!」「やっと切れた!」と大喜びの子どもたちでした。切った丸太のにおいや手ざわりを確かめたり、年輪を数えたりして木に親しみました。

拾い集めてきた木の実や枝を使ってのオブジェ作りでは、「これ使いたい!」「ここにおいてみよう」「木の枝さしたい」と子どもたち一人ひとり自由な発想で木の実や枝、葉などを飾りつけました。「ケーキみたい〜」「顔つくったよ」と嬉しそうに作ったものを見せ合いながら楽しみました。

内 容	・森林・林業の講話 ・木工クラフト
時 間	2 時間
場 所	園庭、遊戯場
対 象	5 歳児 2 クラス 58 人
講 師	森のせんせい：藤川和彦氏
備 考	「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した町事業

【先生のコメント】 日頃の保育活動の中では、なかなかできないノコギリを使っての丸太切り体験をさせていただき、楽しかったです。子どもたちにとってとても良い経験となり、保護者の方からも好評でした。

26

里山体験キャンプ

四日市市少年自然の家



シイタケの原木作り



薪割



里山保全活動1（ヒサカキの伐採）



里山保全活動2（ヒサカキの枝払い）

ねらい

- ・学校や学年の異なる子どもたちが里山の生活体験を通して交流する
- ・自然や物の価値を知る機会にする

取組内容

1日目は「里山保全活動」「薪割」「木の実の炭づくり」「野外炊事」「キャンプファイヤー」を実施しました。里山保全活動では、なぜ里山を守るのかを考えてもらい、実際にヒサカキの木の伐採と薪作りを行いました。薪割では、野外炊事での火起こしに使用する細薪をナタを使って割りました。木の実の炭づくりでは、森で拾った栗のイガやマツボックリなどを炭にし、野外炊事で使用しました。

2日目には「シイタケの原木づくり」「丸太切り」「ネイチャークラフト」を実施しました。シイタケの原木づくりでは、ノコギリで原木を切り分け、菌打ちを体験しました。原木にそれぞれサインをし、家へのお土産になりました。また、丸太切りで切った木と森で拾った木の实を利用してネイチャークラフトを行いました。動物の形を作ったり、ケーキのようなものを作ったり、自分で考えたものを自由に表現することはとても楽しそうでした。

内容	・里山体験キャンプ
時間	9時～翌日の14時
場所	ふれあいの森、野外炊事場、大門池広場、体育館下ピロティ
対象	4年生 19人 5年生 7人 6年生 3人 (四日市市内の小学生 29人)
講師	四日市市少年自然の家
備考	四日市市少年自然の家主催事業「里山体験キャンプ」

【イベント担当スタッフのコメント】 いろいろな種類の木を、いろいろな形でさわることができ、木の香りや肌ざわりを楽しんでいました。特に、自分でサンドペーパーをかけた卵型の木を、ずっとさわって楽しんでいました。

身近な地球温暖化を学ぶ活動

～森林公園の芝生広場にモミジを植えよう～

松阪市森林公園



森のせんせいの話



イロハモミジのポット苗 植樹の様子



植樹した後に鹿よけを設置している様子



ねらい

- ・幅広い方に森林の役割や植樹活動が地球温暖化防止の取組に寄与することを知ってもらう
- ・植樹活動をきっかけとして環境問題に関心を持つ消費者を増やす

取組内容

はじめに参加者へ森のせんせいから、種から樹木が成長する様子のお話や森林の役割についてのお話がありました。太古の昔に土に埋まった樹木などが数億年という時間をかけて石油、石炭になり、それを燃やすことで地上に二酸化炭素が発生するというお話がありました。一方で、樹木は植えることで、成長過程で二酸化炭素を吸収し、地球温暖化の防止につながるという循環の仕組みをわかりやすく説明いただきました。

次にイロハモミジの植え方について、培養土や施肥の役割、肥料の入れ方について学習しました。芝生斜面に25個のポット苗を植樹しました。

芝生には鹿が来るため鹿よけ対策として防除カバーを設置しました。

木が大きく育つためには、色々な作業があることを学ぶことができたと思われました。

内容	・森林の話 ・植樹体験
時間	約2時間
場所	芝生広場
対象	大人 13人 子ども 8人
講師	森のせんせい：前野昌弘氏
備考	松阪市森林公園主催事業 「第1回モミジの植樹会」

【公園職員のコメント】 植樹場所が斜面であったため大変な作業となりましたが、皆さん説明を聞いていただいて手際よく植えていただきました。参加者の皆さんからは今後の成長を楽しみにされている様子が感じられました。

みえ森林教育ビジョン（概要版）

- ・森林と社会を巡る情勢の変化に対応した森林環境教育・木育を推進するため、ビジョンを策定
- ・みえ森林教育の基本的考え方、目標とする社会と人物像、取組の進め方を規定

ビジョン策定の動機（森林・社会を巡る情勢変化）

森林と社会の持続可能性を追求する上で、森林と私たちの関係を見つめ直すことが不可欠

充実する森林を木材のみならず、さまざまな産業を展開する空間として活用し、森林を整備・更新することが必要

みえ森林教育の基本的考え方（今後の森林教育の果たす役割）

森林や木材が暮らしや経済に当たり前に取り入れられている社会づくりへ向けた教育

森林に関わる活動やビジネスを志すきっかけとなる教育

自ら考え、判断して行動する力を育む森林教育

取組の進め方

森林教育の裾野の拡大

- 森林教育に気軽にアクセスできる場や機会の拡大
- 保育や教育への森林教育の更なる普及
- 大人や企業を対象とした森林教育の拡充

子どもから大人まで一貫した教育体系の構築

- 新たなみえ森林・林業アカデミーにおける森林教育と林業人材育成の統一的視点の下での推進
- 林業・木材産業に従事する方との連携強化

主体的・対話的で深い学びの充実

- 主体的・対話的な学びを取り入れた教育手法の普及
- 森林をフィールドとした体験活動の機会の拡大

指導者の養成

- ビジョンの指導者への共有
- 指導者養成講座の体系化

【目標とする社会】

森林と私たちの暮らし、経済がともに持続可能で豊かな社会

【目標とする人物像】

森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人



森林教育のサポート



学校や保育園・幼稚園、学童保育などで取り組まれる森林教育の活動にかかるサポートを行います。

●主なサポート内容

- ・「出前授業」の実施
- ・指導者「森のせんせい」の紹介
- ・授業を行うにあたっての相談対応
- ・授業の組立やプログラム作成のお手伝い

「出前授業」

これから森林教育を始めたいという学校等を対象に出前授業を実施しています。はじめの一歩にご活用ください。

指導者の育成

各種講座を通じて、森林教育の指導者の養成や、「森のせんせい」登録者のスキルアップを図ります。



●講座の内容

- ・「森林教育指導者養成講座」の開催
- ・「森のせんせいスキルアップ講座」の開催
- ・教職員対象の森林環境教育研修の開催

みえ森づくり サポートセンター

森づくりの つながり

「森のせんせい」のネットワーク構築や、座談会の開催、森林教育、森づくり活動を行う団体との連携を行います。

物品や資機材の貸出

森林教育に活用できる道具・遊具や、森づくり活動に必要な資機材の貸出を行います。

●貸出物品の一例

- ・カップ用品の一式
- ・ヘルメット、チャップスなどの安全装備
- ・ハンディGPSなど測量用具各種



「ミエトイ・ キャラバン」

木育を多くの方に体験していただくために、三重の木を使った木製遊具などを出展する

「ミエトイ・キャラバン」
を行っています。

イベントの開催



広く森林教育の取組を伝えるための「場」として、また指導者の実践の場として、各種イベントを開催します。

●イベントの一例

- ・自然観察や木工体験など「森の学校」の開催
- ・県民参加の植樹祭の開催
- ・木の遊具やおもちゃで遊べる「ミエトイ・キャラバン」の開催
- ・「みえの森フォトコンテスト」の開催



表紙の写真 第8回みえの森フォトコンテスト入賞作品
(表) 中学生以上の部 「不思議な世界」 高木 虎伯さん
(裏) 中学生以上の部 「みどりい。」 前田 悠夫さん

【編集・お問い合わせ】

みえ森づくりサポートセンター

〒515-2602 三重県津市白山町二本木3769-1 三重県林業研究所 交流館内

TEL:059-261-1223 FAX:059-261-4153 mail:miemori@zc.ztv.ne.jp

web <http://www.zb.ztv.ne.jp/miemorisc/> facebook <https://www.facebook.com/miemoridukuri/>

Instagram <https://www.instagram.com/miemoridukuri/>



この事例集は、「みえ森と緑の県民税」を活用して作成しました。
みえ森と緑の県民税については、こちらをご覧ください。

